



詳しくはホームページをご覧ください。お問合せは、
支援部 (042-374-2101) までお願いします。
※受付時間：平日9：30-12：00/13：00-17：00

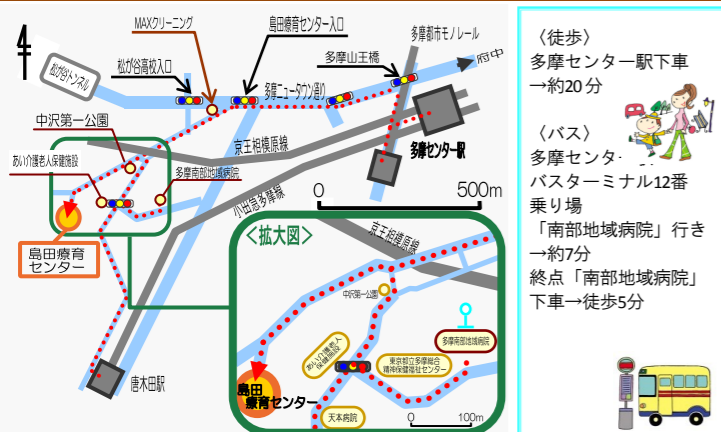
「重症心身障害児者の療育&日中活動マニュアル」のご紹介



以前から療育部内で「療育ハンドブック」として使用していたものに、内容を膨らませ2019年5月に刊行しました。施設に入所されている方々にとっての「豊かな暮らし」とは？を追求し、今まで培ってきたものが盛り込まれています。
購入したい!!という方がいらっしゃいましたら、島田療育センターのHP又は「日総研」出版から申し込みをすることができます。
『重症心身障害児者の療育&日中活動マニュアル』
¥4,100(税抜)

ST講習会 『食べる機能の発達について ~上手に食べられるために~』

食べる機能の発達についての基礎知識について、当センター言語聴覚士がお話しします。
日時 2020年2月7日(金) 10:00~11:30(受付 9:45~)
場所 多摩市立複合文化施設パルテノン多摩 4階学習室
対象 お子さまの食事に困りごと、心配のある保護者 (お子さんの同伴はできません。)
関係者 (保護者優先、定員に余裕がある場合に限りです。)
定員 20名
費用 無料
申込方法 当センターホームページ、申込書をFAX
★詳しい情報はホームページに掲載しています。
申し込まれる方は必ずご確認ください。



2020年度にこここグループ

4月と5月に体験会、6月から前期活動を予定します。対象者はグループ開始時に2才から3才(年少前)のお子さんです。
現在実施中の2019年度後期の様子は、ブログQRコードブログで公開中です。ご覧ください!
詳細はHPや院内ポスターにて公開予定です。



障害者(児)地域療育等支援事業

- ①外来療育等支援事業(療育相談) 相談は無料です
運動面やことばの発達、集団生活にうまくなじめないなどのご相談に応じます。
- ②施設支援一般指導事業
発達のご心配や障害のある方を受け入れておられる地域施設、機関職員の方を対象にご相談に応じます。
- ③訪問療育等支援事業(訪問相談)
地域施設や家庭へ赴いて、健康診査や介護指導などを行います。

島田療育センターイベント情報 メルマガ会員募集中!

- ①空メールを送信
QRコードを読み取り、空メールを送信してください。
- ②確認メールに返信
リクエスト確認メールが届きますので、そのまま返信してください。(Googleグループの機能を利用しているため、Googleからのメールが届きます。)
- ③登録完了!
参加完了のメールが届き、登録完了となります。

編集後記

お正月はどの様に過ごされましたか？私は箱根駅伝を地元1区で応援しました。箱根駅伝は毎年ドラマがありますよね。その中で宣伝CMの前に流れる、過去の駅伝の様子が毎回楽しみのひとつです。今年で96回目と聞くと、これからもずっと続いて欲しいなと思います。選手の皆さんの姿に心打たれ、今年も1年頑張ろうという気持ちになりました。(高野)

編集：社会福祉法人 日本心身障害児協会
島田療育センター 支援部
住所：〒206-0036 東京都多摩市中沢1-31-1
電話：042-374-2071 (代表)
E-mail：Info-room@shimada-ryoiku.or.jp

NEW

ネットワーク

しまだ



Network Shimada

発行者 島田療育センター
院長 木実谷 哲史

第15回 心理講演会のご報告

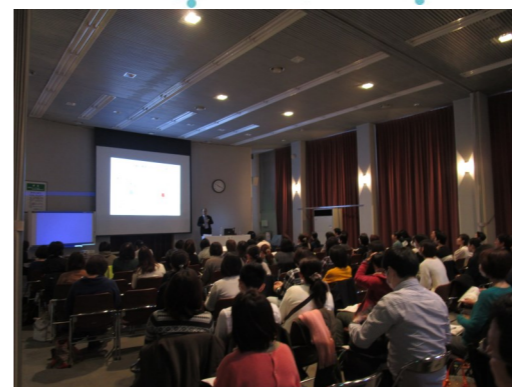
令和元年12月8日、当センター厚生棟にて第15回心理講演会を開催しました。臨床心理科では、さまざまな年齢、発達特性をお持ちのお子さんについて、ご家族や地域で関わる方々の相談をお受けしており、地域社会との連携について考える機会が多くあります。そこで今回は、講師に鳥取大学医学部医学系研究科臨床心理学講座教授の井上雅彦先生をお迎えし、「発達が気になる子どもと家族を支える地域社会をめざして~子どもへの具体的な支援方法を理解し、地域での連携について考える~」というテーマでご講演いただきました。

当日は寒気のきびしい中、ご家族をはじめ、小中学校や幼稚園教諭、保育士、学童クラブ・放課後等デイサービス職員、医療・福祉施設職員など、100名がご参加くださいました。講義では、発達障害のある子どもの背景要因や法律について触れたうえで、早期からの家族支援の重要性やペアレントメンターなど、先生ご自身の臨床実践を通じた知見や事例を幅広くご紹介いただきました。そして、ライフステージごとの相談・支援ニーズや方法、鳥取での取り組みなどについてもお話いただきました。さらに、「自分自身の強みや弱みを知り、強みを活かし、弱みは全て努力で克服しなくて

も良い」というお話が印象的でした。後半では、参加者の皆様からの質問に具体的な例を挙げながら丁寧にお答えいただきました。参加後のアンケートでは「具体的でわかりやすく、日々の子育て・実践に活かしていきたい」というご感想が多く、「井上先生の語り面白い」といった声も多く聞かれました。ご家族からは「その後を考えること、つまずきやすい点を見通せたことが良かった」「当時の思いを先生に代弁していただきました」とのご感想をいただきました。また支援者からは、「環境全体への支援が重要であることを痛感した」「子どもも大人も“生まれてきてよかった”と思えるよう支援を楽しく続けていきたい」とのご感想をいただきました。

親として、支援者として、子どもにとってより良い環境でありたいと思う気持ちは共通していることと思います。今回の講演会が、目の前の子どもを取り巻く環境の在り方について見つめなおし、さらに、家庭・園・学校間のより良いつながり方について考えていく機会となったのであればうれしく思います。講師の先生、参加者の皆様、ご協力くださいました関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。

(臨床心理科 稲石 ひろみ)



講演中の会場の様子



井上 雅彦 氏

ATACカンファレンス2019参加報告

毎年12月に京都で行われているATACカンファレンスをご存知でしょうか? ATACは“エイタク”と発音し、教育、福祉、リハビリ、支援技術、テクノロジーなどに関心を持つ人が様々な情報を得て、新しい時代の教育や自立を考える会です。学校教員、セラピスト、福祉施設の職員などが多く参加しており、私自身はピコピコルームの担当者として、当センターの利用者様とのコミュニケーション、リハビリで活用できる手法やテクノロジーを取り入れるために参加してきました。



会場の様子

参加1日目はGathering Dayといい、立場や分野を超えて様々な人が集い、考え、語り合う日です。今年のテーマは「素材を楽しむ」で、多様性を理解すべきと言われながらも現状では少数派の人が多数派の人に合わせる教育や訓練を受けている現状があり、個々の特性を活かしながら誰もが無理することなく社会で生活するにはどうしたらよいかを考える機会として企画されました。「課題」「凸凹」「料理」などさまざまなモノや人を“素材”として捉

え、周囲の人がその“素材”をどうプロデュースできるかを考えていく時間で、社会を良くするためには常識にとらわれない考え方が求められているということを改めて学ぶ機会となりました。参加2日目はPractical Dayといい、それぞれのテーマに沿って学びを深めるセミナー形式の時間です。今回はスマートスピーカーなどの“IoT”の活用や、当センターでも需要が高まっている視線入力のアセスメントと学習利用の活用テクニック、そして読み書きの苦手なお子さんたちへのテクノロジー活用について受講してきました。どれも実用的なお話で、特にセミナーの中で紹介された読み書きの苦手なお子さん向けのiPadアプリや、視線入力の評価ツールなどはピコピコルームでも活用を進めていきたいと考えています。今後はセンター内で職員への伝達を行い、当カンファレンスでの学びが利用者様へのより良い支援につながるようにしていきたいと思



会場の様子

利用者様へのより良い支援につながるようにしていきたいと思

(支援部 神田 水太)

セブクローバー サポーターさんのご紹介

セブクローバーのグループ療育では、当センタースタッフだけでなく、サポーター(※)さんにもご協力いただき、お子さんに対応しています。今回は、にこにこグループとGトレーニングでご協力いただいている3名のサポーターさんにインタビューをしました。

(※サポーター…セブクローバーのボランティア)

【自己紹介】

Aさん(以下A):にこにこのサポーターは5年目で、普段は学童で支援員をしています。

Bさん(以下B):学童クラブに勤務しています。にこにこのサポーターは4年間しています。

Cさん(以下C):Gトレーニングを2年、最近ににこにこグループにも参加しています。

【サポートを始めたきっかけ】

A:発達障害に関わる母子支援をしたかったことがきっかけです。

B:Aさんから誘われて始めました。

C:仕事で発達に困り感を抱えているお子さんに接する機会が多いため、勉強をしたいと思ったからです。

【活動内容】

A:活動準備・片付け、お子さんが安心して活動できるよう配慮、スタッフ補助、保育などです。

B:見守りやお子さんと遊んだり、活動補助やペアサポート

などの進行をします。

C:活動場所や教材の準備、遊びの補助などを行っています。

【やりがいについて】

A:毎回できることが増えるお子さんを見たり、成長を喜ぶ保護者の想いを聞くことができること、母子と一緒に喜びあえることが楽しいと感じます。

B:親子の成長プロセスが見ることができて嬉しい。スタッフのお子さんへの接し方も勉強になります。

C:サポートが上手に出来たと感じる時です。一生懸命活動に参加するお子さんの様子に毎回心を打たれます。

【サポーターに興味がある方へひとこと】

A:スタッフの声掛け・対応を見て自分のステップアップにもなりますよ。

B:お子さんの成長が見えます。自分の勉強にもなります。

C:スタッフの指導技術を直近で見ることができ、自分の肥やしになりますよ。

現在もサポーターの方を募集中です。見学もできますのでご興味ある方は支援部までお問合せください。

(支援部 高野 桃子)



ダウン症乳幼児グループ指導「ほっぺグループ」

ほっぺグループは、多摩市から助成金をいただき、生後10ヵ月から年少児未満のダウン症のお子さんを対象に活動している親子グループです。言語聴覚士5名が担当しています。遊びの中で人と関わる力や感覚・運動面、食べる力を伸ばすことなどを目的とした活動を月2回で行っています。今回はグループの近況をいくつかご紹介します。

グループでは毎年親子で楽しめる製作活動を行っています。光・音・香りなどさまざまな感覚刺激を感じる活動としてスヌーズレンがありますが、今回は身近な物で「手作りスヌーズレングッズ」を製作しました。ペットボトルに好きなスパンコール、カラーセロハンを入れて、洗濯のりと水を入れたら出来上がりです。好きな物を指さして選択してもらったり、実際に触ってさまざまな感触を楽しんでもらいながら、一人一人素敵なグッズを完成させました。ライトアップするとおひさまは、幻想的な光を楽しんだり、スパン



手作りスヌーズレングッズ

コールや泡の動きを興味深く見つめたりしてとても印象的でした。音、光、感触など様々な感覚刺激を感じることは、実は言語・コミュニケーションの発達にはとても重要です。



グループの様子

また、昨年度より当センターのブログに活動の様子を掲載しています。地域のダウン症のお子さんを持つご家族へ親子グループの活動をお伝えするだけでなく、ご家庭でもできる関わりについてのヒントとなる

ような内容を目指し、スタッフ一同話し合いながら更新しています。

その他、本年度は第20回言語聴覚学会にて本グループの活動報告を中心としたポスター発表も行いました。言語聴覚士を中心としたダウン症のお子さんを対象とした親子グループは全国的にはまだ少ないようです。今後も活動の報告のみならず早期療育に関する情報も発信してこうと考えています。

今後も、“親子で楽しみ”“仲間をつくり”“少し勉強をして”大きな集団に入るまでのステップになるよう、スタッフ一同、支援していきたいと思っています。

(言語聴覚療法科 黒柳 絢太)



こんにちは?
発達相談Q&A

Q

絵本を読んであげているのにすぐにどこかに行ってしまい、落ち着いて話を聞いてくれません。どうしたらいいですか?



A

絵本を読み聞かせようとする、いろいろなことばを覚えてほしいこともあって文章が長く、物語になっている絵本を選びがちです。お子さんにとって意味の分からないことばが多くなってしまおうと興味を持ってなくなってしまうかもしれません。お子さんに絵本の楽しさを伝えていくには、毎日の生活の中で経験していること(食事、入浴など..)が題材になっている絵本や、簡単なことばがくりかえされる絵本(どうぶつが次々に出てきてあいさつするなど..)などが最初はわかりやすいかもしれません。また、読み聞かせというどうしても文章を正確に読んで聞かせようとする

と思いますが、文章を読むだけではわかりにくいこともあるので、見てほしい絵を指さしたり、時々身振り(食べるシーンで食べ物をもぐもぐと食べるま



ねをするなど)をしてもいいと思います。絵本の内容を後で遊びの中で再現して見せるのも楽しいでしょう。

絵本に興味が出てくると「同じ本ばかり読んで欲しがります。他にも読んできかせたい本がたくさんあるのに..」という悩みをお聞きします。それよりもお子さんが繰り返し読んでもらいたい本に出会えたことを一緒に喜びましょう。「絵本ってなんて楽しいんだろう!」と思えたということです。本好きになる第一歩を踏み出したわが子にしばし付き合ってくださいね。

*島田療育センターブログ「ほっぺ」より引用

(言語聴覚療法科 岸 さおり)

